

~~~~~  
 故新宮君追悼  
 ~~~~~

故新宮恒次郎君ヲ懷フ

小倉金之助

一度全快ヲ傳ヘラレタ新宮君ガ、コンナニ急ニ逝カレルトハ、夢ニモ思ハナカツタ。大患ノ癒後ニツイテ竊カニ心配シテキタ私モ、12月ノ半バ頃、『數學教育』講座ノ中デ病後ノ執筆ヲ見出シタ時ニハ、君ノ恢復ヲ信ジ切ツテ全ク安心シタノデアツタ。年末カラ年始ニカケテ、奥伊豆ノ温泉ニ靜養シテ居タ私ハ、君ノ長逝ニ就イテ少シモ知ラナカツタ。1月8日ノ午後、下田ノ教育會カラ無理ニ頼マレテ數學教育ノ講演ヲヤラセラレタガ、思ヘバ丁度ソノ時刻ニ、君ノ葬儀ガ行ハレテ居タノデアツタトハ、——年齢カラ見テモ、マタ平素ノ健康状態カラ見テモ、ヨモヤ私ガ君ヲ追悼スルヤウニナラウトハ思ハナカツタ。

私ガ君ヲ個人的ニ知ツタノハ、慥カ大正13年ノ初夏デアツタ。ソレカラ吾々ノ交誼ハ君ノ最後マデ續イタガ、何分ニモ私ガ廣島ニ滞在シタ日數ハ、前後合セテ僅ニ30日バカリデアツテ、君ノ個人的並ニ公人的生活ニツイテ、深ク知ルコトナドハ、迎モ出來ナカツタ。現ニ君ハ尙志會（母校同窓會）ノ有力ナル幹部トシテ、經營的、事務的方面ニ異常ナ努力ト才幹トヲ示サレタト言ハレル。マタ勿論、君ハ教師トシテモ、家庭人トシテモ、模範的デアツタデアラウ。シカシ斯様ナ方面ノ追憶ハ、他ノ方々ニ譲リタイ。私トシテハ取り敢ヘズ、單ニ數學教育者トシテノ君ノ一面——ソレモ主トシテ著書論文ヲ通ジテ見タル一ツノ側面——ニ就イテノ此ノ粗雜ナ覺書ニヨツテ、今ハ亡キ君ヲ懷フノ情ヲ述ベタイノダ。斯様ナ一面的ナ見方ハ、常ニ事物ヲ全面的ニ

把握シヨウト努力サレタ君ノ立場カラハ、許シ得ナイコトデアラウガ、君ヨ、ドウゾ此ノ不遜ヲ許シテ呉レ給ヘ。私モ機ヲ見テ何時カハ、大正カラ昭和ニカケテノ數學教育史——君ガ晩年ニアレダケ熱心ニ研究サレタトコロノ——ヲ書キ、ソノ中デハ君ノ仕事ヲモ客觀的ニ分析シタイト思ウテ居ル、……。

二

思ヘバ君ガ廣島高師ニ入學シタ頃ハ、日本ニ於ケル數學教育ノ黎明期——數學教育改造ノ叫ビガ高クナリ出シタ時デアツタ。廣島高師附中數學研究會ガ數學教科書ヲ公ニシ始メタ（大正6年）ノモ、マタ日本中等教育數學會ガ設立ヲ見タ（大正7年）ノモ、丁度ソノ時機デアツタ。君ハ大正10年ニ學窓ヲ出ルヤ否ヤ、直チニ改造運動ノ眞中ニ、勇敢ニ飛ビ込シタ。ソシテ最後ノ日マデ、休ム暇モナク、數學教育ノ主流ニ立ツテ活動ヲ續ケタノデアツタ。

カクテ君ハ出發ノ日カラ、何ヨリモ先ヅ廣島高師及ビ附中ノ傳統ヲ負フテキタ。遠イ過去ハ別トシテモ、君ハ津山三郎其ノ他ノ諸教授ヤ、曾田、高橋（悦郎）、等々ノ先輩諸氏ノ個人的ナ、マタ團體的ナ感化、影響、交渉ノ下ニアツタノダ。コノ關聯ヲ切り離シテ、單獨ニ君ノ存在ヲ考ヘルコトハ、困難デモアリ不當デモアラウ。シカシソレニモ拘ハラズ、君ニハ著シイ個人的特徴ガアツタ。事實、數學教育ニ關心ヲ有ツ程ノ人ナラバ、何人デモ、日本數學教育ノ優秀ナル指導者及ビ理論家——ソノ中ニ廣島關係ノ人々ヲモ含メテ——ノ間カラ、直チニ君ノ特色ヲ見出シ得ルニ相違ナイノデアル。

君ハ學窓ヲ出ラレテカラ僅カ13年ノ間ニ、驚クベキ程多クノ業績ヲ殘サレタ。今假リニ之ヲ次ノ^四五種ニ分類シテ見ル。

- (1) 廣島高師附中數學研究會ノ教科書
- (2) 單行書
- (3) 數學教育ニ關スル諸論文
- (4) 其ノ他ノ論文及ビ記事、時報ノ類

コノ中、(4)ニツイテハ茲ニ述ベナイガ、ソレハ主トシテ「ジャーナリスト」トシテノ君ノ一面ヲ語ルモノデアツタ。

次ニ、教科書(1)ハ團體トシテノ業績デアルカラ、——ソレガ日本數學教育ノ上ニ重大ナル影響、感化ヲ與ヘタモノデアリ、日本ニ於ケル最モ進歩的ナ一種ノ典型的教科書デアルニ拘ハラズ、——コヽニハ詳述ヲ差控ヘタイ。シカシ此ノ教科書中ノ或ル部分ニハ、君ノ教育的識見ガ具體化サレテキルノデアリ、君モコノ著作ノタメニハ容易ナラザル努力ヲ傾注シテキタノデアルカラ、コレヲ除外視スルコトハ、如何ナル意味ニ於テモ忍ビ得ナイノデアル。コレニ就イテハ曾田教授カラナリト、事實談ヲ承ハリタイモノト思フ。日本ニハ、眞ノ著者ナラザル教科書ノ「著者」ガ、可成多クキルノデアルカラ、……

三

次ニハ單行書(2)ニ移ラウ。君ハ數種ノ「パンフレット」ヲ出サレタヤウデモアルシ、マタ『^{タイム・}テスト用代數學標準問題カード』ヤ『^{算術實驗用}_{初等測量用}三角函數表』ナドモ作ラレタ。今是等ヲ除イテ、相當ノ厚サアル單行書ヲ擧ゲルト、私ノ知ツテキルモノ許リデモ、12種ニ達スル。

大正11年(1922)

〔1〕 グラフ教授 (修文館)

大正13年(1924)

〔2〕 家庭並ニ 學校ニ於ケル 早教育ノ理論ト實際 (廣陵社)

大正14年(1925)

〔3〕 小學校算術科 ニ於ケル 實驗實測 (修文館) [曾田梅太郎氏ト共著]
高橋悦郎氏

〔4〕 グラフ研究 (修文館)

大正15年(1926)

〔5〕 最新思潮 ニ基ケル 小學校算術教授 (廣陵社)

昭和2年(1927)

〔6〕 ラツグ クラーグ 初等數學ノ基礎 [譯書] (山海堂)

〔7〕 球面三角法 (富山房)

〔8〕 「グラフ」ト統計ヲ應用シタル新算術教育 (教文書院) 〔岡田喜一氏ト共著〕

昭和5年(1930)

〔9〕 オスグールド
グラウスタイン立體解析幾何學〔譯書〕 (共立社)

〔10〕 ベリー, 初等實用數學〔譯書〕 (山海堂)

昭和7年(1932)

〔11〕 ベル, 三次元座標幾何學〔譯書〕 (寶文館)

昭和9年(1934)

〔12〕 算術教育汎論 (雄山閣)

コノ中ニ含マレタ數學ノ内容ハ、算術、代數、幾何、三角法カラ解析幾何、微積分ニ至リ、引イテハ微分方程式ヤ微分幾何學初歩、天文、測量ニ及ビ、可成リ理論的ノモノ(例ヘバ〔9〕,〔11〕)カラ實用的ノモノ(例ヘバ〔10〕)ニ互ツテキル。君ハ多面的ナ才能ノ持主デアルト同時ニ、實ニヨク働イタ。今日ノ日本ニハ、一人ノ力デ而モコノ短日月ノ間ニ〔4〕,〔7〕,〔9〕,〔10〕,〔11〕ノ五種ヲ纏メ得ルヤウナ、高等専門學校教授ガ果シテ多ク存在スルヤ否ヤ、疑ハシイ位デアル。

シカシ何ト言ツテモ、君ノ著譯書ハ、數學教育——ソレハ中等學校ヲ中心トシテ、獨リ小學校ノミナラズ、専門程度ニマデ達スル所ノ——ヲ主眼トシタモノデアツタ。君ノ本領ハ「學校數學」ノ研究ニアツタノデアル。事實、君ガ雑誌『學校數學』創刊ノ辭トシテ述ベタ通り、如何ニモ

「學校數學ノ名ハ……學校ト數學トヲ結合サセテ出來タ複合名詞デアアルガ、出來タ其ノモノハ學問的ノ數學、所謂純正數學ニ對立スベク、教育ヲ對象トシテ獨特ノ内容ト方法トヲ包含スルモノデアル。」

カクテ學問的ノ「數學」ト「學校數學」トハ、一應ハ對立サセラレルガ、シカシ學校數學ニアツテハ、「數學」ト「教育」トハ統一サレネバナラナイノデアル。ソレガ爲ニ、數學教師ハ、一度學ンダ數學ヲタゞ教授スル許リデアツテハナラナイ。——ソンナモノハ數學教授ノ屍デアラウ。數學教師ソノ人コソ、絶ヘズ自ラ學ブ所ガナケレバナラナイノダ。ソレナレバコソ、君ハ小

學校ヤ中學校ノ教育ソノモノニハ縁遠イ、ヤ、學究的ナ翻譯サヘモ企テラレタノデアラウ。君ハ翻譯シナガラ、自ラ勉強シタノカモ知レナイ。シカシ孰レニシテモ、君ノ本領ハ斷ジテ學究的方面ニハナカツタト、私ハ思ツテキル。事實、君ガ書カレタ多數ノ論文中ニハ、斯様ナ學究的色彩ハ極メテ稀薄ナノデアアル。

サテ是等ノ著譯書ヲ通覽シテ痛切ニ感ジルコトハ、君ノ時代ニ對スル聰明ナ敏感性ト、教育的、啓蒙的、指導性デアアル。

實ニ君ノ處女作タル『グラフ教授』ハ、グラフ教授ノ實踐的指導書トシテ、或ル意味ニ於テ、劃期的ノ著述デアツタ。一般數學教育界ガ、新鮮ニシテ潑刺タル君ノ出現ニ注目シ出シタノモ、コノ書ガ廣ク歡迎サレタノモ、全クコノ書ガ新時代ノ要求ニ適合シタカラデアラウ。

同様ノ意味デ、『小學校算術科實驗實測』モマタ意味深イ著述デアツタ、

マタ幾何學ノ分野ニ於テ、平面圖形ニ就イテハ相當ノ著述ガ行ハレテキルニモ拘ハラズ、空間圖形ニ關スル著述ガ少ナカツタ時代ニ、君ハ『球面三角法』ト『立體解析幾何學』トヲ著譯サレタ。ソレハ確カニ有意義デアツタト思フ。(シカシ君ガ微積分ノ興味アル入門書ナドニ手ヲ出サズニ、寧ロ學究的ナ解析幾何例ヘバ〔11〕ナドニ深入リシタノハ何故デアツタラウ。君ガ「アカデミック」ナ解析幾何ニ對シテ妙ニ興味ヲ有ツタコトハ、今デモ私ノ理解シ得ナイコトナノダ。)

統計ノ教育上ニ於ケル意義ヲ認メラレタ君ハ、早速〔8〕ヲ書カレタガ、コノ書ハ大部分ハ岡田喜一氏ノ執筆ニ係ルモノト私ハ推定シテキル。

『ラッゲ
クラーク初等數學ノ基礎』ノ譯者トシテ、君ヲ見ルコトハ、獨り私ノミノ喜ビデアアルマイ。コノ書ハ原書ト譯者ノ呼吸ガ、ピッタリト合ツテキル。コノ譯書ハ——單ナル刺戟トシテノミデハナク——實質的ニ、相當ニ大ナル影響ヲ我ガ教育界ニ與ヘ得タト同時ニ、君自身ノ上ニモ影響スル所ガ大キカツタト思フ。

若シソレ『ベリー、初等實用數學』ノ翻譯ニ至ツテハ、君ハ非常ナ苦心ヲ

積マレタラシイ。「今組版成ツテ之ヲ回顧スル時ハ、ペリーノ如ク博學ニシテ而モ彼ノ如ク創意豊ナ天才ノ作品ヲ翻譯スルニ、餘リニ自ラノ微力ト貧弱トヲ慨嘆スルノミデアル……一問題ノ紹介ニ、纏ツター冊ノ著書ヲ讀ムノ止ムナキニ至ル微力サデ、如何デヨク、其ノ精神ヲモ併セテ、我ガ日本文化ニ輸入シ得ヨウゾ」トハ、君ノ嘆キデアツタノデアル。「手取り早イ」「直グニ採用シ得ル、又ハ模倣シ得ル」ヤウナモノ許リガ流行スルノハ、必ズシモ小學校方面許リデハナイヤウニ思ハレル。私ハ今日デモ、先ヅペリーヲ精讀シ、直接ニペリーヲ理解スルコトノ急務ヲ感ズル。本當ニペリーヲ讀ミ、眞面目ニクラインヲ研究シタ、中等教師ガ、日本ニハ果シテドレダケ居ルノデアラウカ。——コノ意味ニ於テ、小林佐平氏ノペリーニ關スル最近ノ研究ハ、一種ノ見解トシテ、充分ニ參考ノ價値アルモノト思ハレル。

四

コレダケノ單行書ヲ書カレタ上ニ、更ニ君ハ夥シク多クノ論文、記事ヲ諸雜誌ニ發表サレタ。君ガ職ヲ廣島高師附中ニ奉ジタ大正11年コソ、同人雜誌的ナ『數學時報』ガ生レタ時デアリ、ソレハ遂ニ其ノ後身タル『學校數學』（昭和5年11月創刊）ニマデ、見事ナ發達ヲ遂ゲルニ至ツタ。君ハコノ雜誌ノ爲ニ努力ヲ傾注シタ、殆ド每號ニ互ル君ノ筆ハ、實ニ誌上ノ花デアツタ。ソノ外ニモ吾々ハ母校關係ノ雜誌『學校教育』、『中等教育ノ實際』ノ上ニ、マタ『日本中等教育數學會雜誌』、『算術教育』、『算術新教育』ナドカラ、地方的ナ新聞、雜誌ニ於テモ、君ノ論文ヲ見出スコトガ出來ル。數學教育ノ理論及ビ實際ニ關スル、相當ニ纏マツタ論文ダケデモ、優ニ30篇ニ達スルダラウ。

私ハ勿論君ノ論文ヲ全部讀シダ譯デモナク、マタソノ題目サヘモ完全ニハ、今直グニハ擧ゲ得ナイノデアル。シカシ、アレダケ書物ヲ愛シ、アレダケ文獻ヲ蒐メ、アレダケ著述、編輯ヲ好シダ君ノ爲ニ、是非トモ、出來ルダケ完全ナ君ノ著作目錄ヲ作り、セメテハ論文中ノ主要ナモノダケデモ、編輯シタイモノダト考ヘテ居ル。